

ANNUAL REPORT 2018

Rural Innovation Lab
KOBELIBV SASAYAMA

RURAL INNOVATION LAB
神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ



SASAYAMA FIELD STATION
神戸大学 篠山フィールドステーション



農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ+篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。2007年に締結された神戸大学と篠山市の地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり進めています。

篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究してきました。その後、当時を知る人々が少なくなる中、改めて関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、連携して活動をおこなうこととしました。

その活動の一環として、篠山フィールドステーションの開設や、大学生が篠山で農家に学ぶ実践農学入門や専門知識を活かし現場で実践する実践農学などの「食農コープ教育プログラム」に取り組むとともに、さまざまな共同研究やプロジェクトをすすめてきました。2014年からは、地域人材育成の一つとして、神戸大学生が篠山に住みながら自身の専門知を活かし地域の課題解決を目指す「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入し現在では起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用して受け入れ地域の課題解決を目指す「起業支援型」にも展開しています。また、「食農コープ教育プログラム」をきっかけとして、学生が自主的に学生団体を結成し、地域の課題解決や地域住民との交流活動を行っており、篠山で活動する学生団体のメンバーは計150人ほどとなっています。そうした活動蓄積の上での新たな取り組みが、2016年に篠山口駅構内に開設した神戸大学・篠山市農村イノベーションラボです。篠山市の地方創生戦略の一つの核として、若者らの地域に根ざしたビジネスビルディング、地域でのチャレンジの支援、そして、新しい農村社会像を描くような、価値創造的で、実践的な研究に取り組んでいきます。

地域連携を支える3つの取り組み

1 地域創造研究

農村地域の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。また、自主共同研究の実施、および研究者等が篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、他地域へ展開可能な地域課題の解決および地域のより良い発展を目指します。



篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発表しています。

2 地域人材育成

篠山や農山村地域を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したインベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コープ教育プログラム(大学生向け)」や「篠山インベーターズスクール(社会人向け)」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。



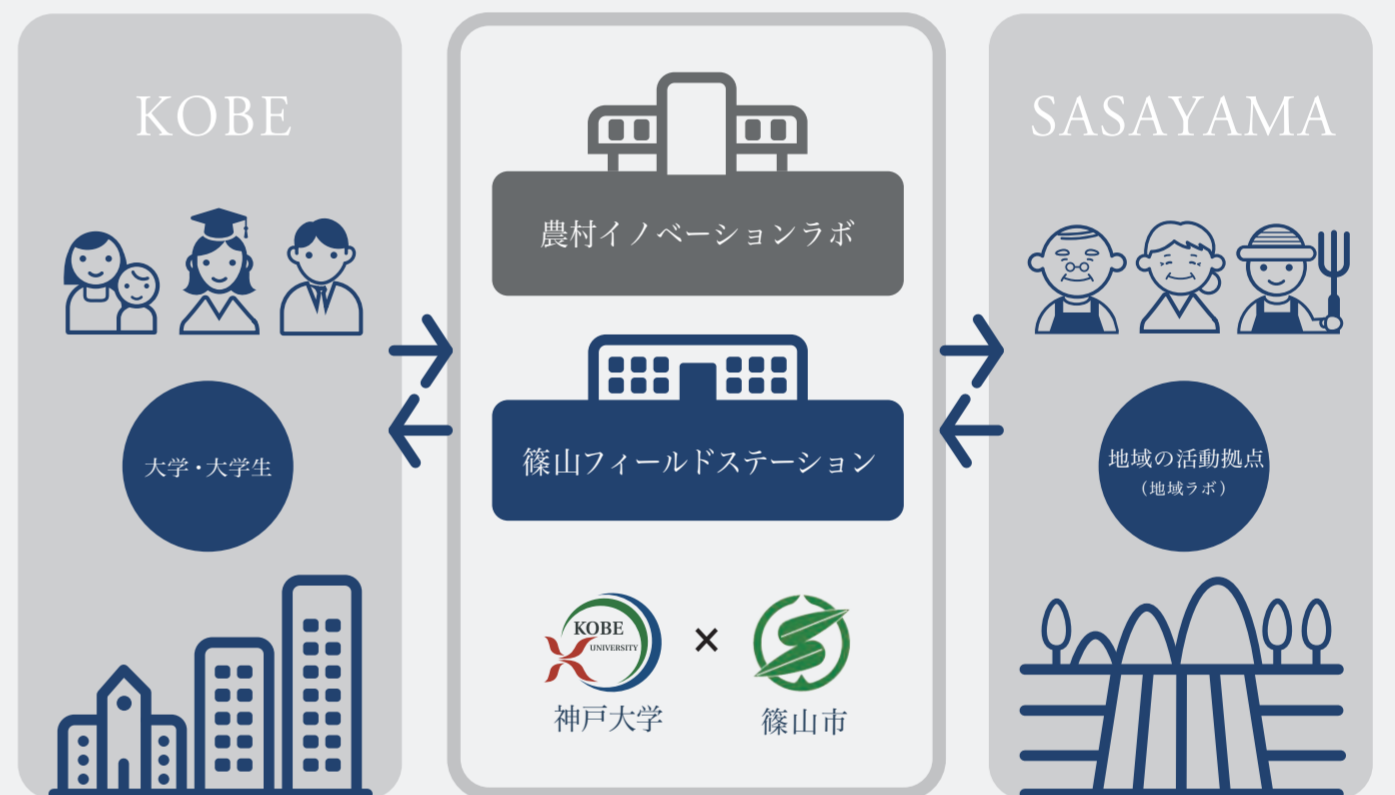
大学生から社会人まで農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実践しています。

3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどをおこなうとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。



地域連携フォーラムや各種セミナーなどを通じて大学の取り組みや事業を公開しています。



プロジェクトスタッフ 大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています



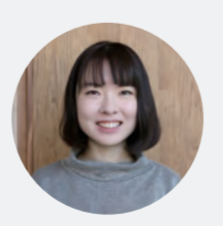
田中丸 治哉
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授



中塚 雅也
ディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 准教授



木原 奈穂子
神戸大学大学院農学研究科
特命助教



谷川 智徳
プログラムマネージャー(LAB)
一般社団法人EKILAB.



谷垣 友里
コーディネーター(LAB)
一般社団法人EKILAB.



湯山 加奈子
コーディネーター(LAB)
一般社団法人EKILAB.



眞鍋 邦大
コーディネーター(LAB)
一般社団法人 EKILAB.



橋田 薫
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



内田 圭介
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



大井 弘子
事務員(LAB)
一般社団法人 EKILAB.

【パートナー】 高田晋史(島根大学生物資源科学部 助教) / 西島よき(まちPRオフィス代表) / 能口秀一(有限会社ウッズ 代表取締役) / 林健二(一般社団法人 TSUMUGI 代表理事) / 山本和代(街角企画株式会社) / 横山宜致(公益財団法人兵庫丹波の森協会)



神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ
〒669-2212 兵庫県篠山市大沢165-3
Phone/Fax. 079-506-6628
http://sasayamalab.jp
info@sasayamalab.jp



篠山フィールドステーション
〒669-2324 兵庫県篠山市東新町4-5
Phone/Fax. 079-506-2366
http://fieldstation.sasayamalab.jp
info@sasayamalab.jp

まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

地域をめぐる様々な取り組みを実践し、イノベーションをおこす

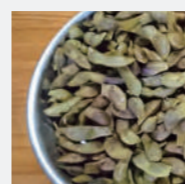
1 地域創造研究



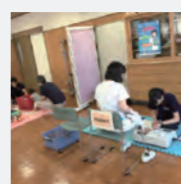
腸内細菌を用いたニホンザルの農地依存度の把握と加害レベルの判定手法の確立
清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)
KEYWORD 獣害対策、柿、都市農村交流イベント、環境創造型農業



里山の管理を再開して森を健康に持続させる地元への提案を目指して
黒田 慶子 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 里山植生、森林保護、ナラ枯れ、バイオマス



地域ブランドの発展にかかる農産物認証制度への意識研究
木原 奈穂子 (神戸大学大学院農学研究科特命助教)
KEYWORD 農産物認証制度、生産体制、地域ブランド知財マネジメント



産後のマイナートラブルの縦断調査
小野 玲 (保健学研究科)
松田直佳 (保健学研究科修士)
KEYWORD 産後、マイナートラブル、腰痛、骨盤痛、抑うつ、尿もれ



人工衛星画像解析を用いた兵庫県内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発
長野 宇規 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 農地土地利用、リモートセンシング、耕作放棄、地域計画



駆除した侵略的外来生物の活用方法の研究
鈴木 武志 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 侵略的外来種、外来種駆除、外来種の利活用、有機肥料化



新規就農者の定着に地域特産品が果たす役割
木原 奈穂子 (神戸大学大学院農学研究科特命助教)
KEYWORD 地域特産品、新規就農、地域ガバナンス



産後女性に対する腰痛予防教室
小野 玲 (保健学研究科)
松田直佳 (保健学研究科修士)
KEYWORD 腰痛、骨盤痛、ストレッチ、トレーニング、育児動作アドバイス



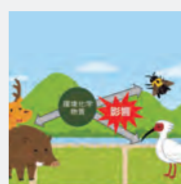
スキッドを用いた株間除草機構の開発
庄司 浩一 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 水田、乗用型除草機、羽根車、選択性、除去率、倒伏、欠株、コナギ、イヌホトカイ、ノビエ



新しい特産品づくりに関する研究—香りヤマナシ栽培の可能性
片山 寛則 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD イワテヤマナシ



広域営農組織の設けが地域農業に与える影響
木原 奈穂子 (神戸大学大学院農学研究科特命助教)
KEYWORD 畦畔管理、集落営農、農地集積、中間組織



野生動物から窺う自然環境アセスメント
杉田 昭佑 (神戸大学農学部学生)
KEYWORD 環境ホルモン、ネオニコチノイド



地域固有性の発現と農村発展モデルの確立
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD アクターネットワーク、農村計画、環境保全型農業、地域連携



篠山市における山林資源の循環活用
内田 圭介 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD バイオマス



IoTを活用した生活交通システムの協力的開発
衛藤 彬史 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 公共交通、生活交通、地域ガバナンス

2 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

実践農学入門 (履修者: 56名)

地元農家に師事し、農作物の栽培やむら仕事を体験しながら、農業や農村生活に関する理解を深めます(6回)。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習(3回)や、農村体験活動やボランティア活動への参加(1回)を設定しています。平成30年度は、農学部や国際人間科学部などの学生56名が、村雲地区で農業を実践されている方々(13戸)のもとで、黒大豆の農作業を実施しました。



黒大豆の栽培
受入農家さんに教わりながら、農作物(黒大豆)の様々な栽培作業(移植、中耕、培土、収穫、選別等)を年間を通じて体験しました。



ワークショップ(校内学習)
農業・農村体験によって得た経験や知見をもとにワークショップを2度実施し、最終的に地域をよりよくするアイデアやプロジェクトを提案しました。



農村ボランティア
グループごとに農作業のお手伝いや地域行事に参加する経験とおとして、農業農村に関する理解を深めました。

【ホームページ】<http://kobe-face.jp> fandacoop

実践農学 (履修者: 25名)

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における現状課題を調査・分析するとともに、課題解決に寄与する取り組みや施策の企画立案から検証実験までのプロセスを理解することを目指します。平成30年度は、里山の樹木調査をする森づくりグループと、西紀中地区里づくり振興会、篠山自然派の会、篠山市地域おこし協力隊を受入先として、プロジェクトごとに企画立案や施策を実施するインターンシップ型グループが演習を行いました。



【ホームページ】<http://school.sasayamalab.jp>

篠山イノベーターズスクール

(第3期生履修者: 17名) (第4期生履修者: 33名)

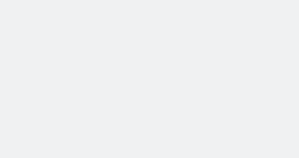
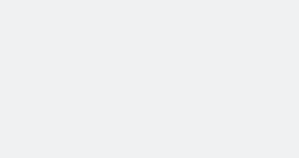
CBL

篠山を舞台にした地域プロジェクト実践を通じて、地域ビジネス実践者に、その技術やノウハウ、理念などを学ぶ学習(Community Based Learning)です。限定8名の少人数制で、スクール生それぞれのビジネスモデルのヒントになるプログラムを設計しています。



セミナー

大学教員や実務家による講義形式のセミナーです。対話と事例を重視しながら、地域でビジネスや活動をおこなう上で必要とされる、基礎的な理論や考え方を学ぶことができます。2018年現在、全6つのセミナーが開講され、スクール生は、各自のテーマや興味関心に合わせて、3つのセミナーを選択・受講し、ビジネス創出に必要な基礎知識や手法を学ぶことができます。



【ホームページ】<http://school.sasayamalab.jp>

地域おこし協力隊

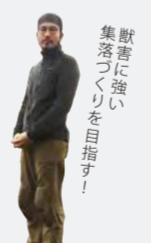
篠山市地域おこし協力隊は、現役の学生や大学院生、大学等研究員が協力隊員となって、学業と並行して調査研究を行いながら、受入地域の活動を支援する「半学半地域型」と、地域資源を活用して起業を目指す人が協力隊員となり、成果を地域に還元する事業を行いながら、受入地域の活動を支援する「起業支援型」の2つの活動形態を設けています。学生の調整する力と起業、そして研究といったそれぞれのアプローチから地域課題の解決を目指すとともに、挑戦的な事業を展開していきます。



コーディネーター
内田圭介(2017~)
「ランドスケープデザイン」



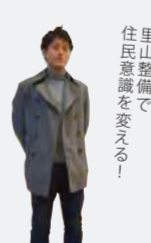
コーディネーター
橋田薫(2018~)
「農家の暮らし」



起業支援型
新田哲也(2017~)
「農産物の加工」



起業支援型
石坂将一(2016~)
「都市農村交流」



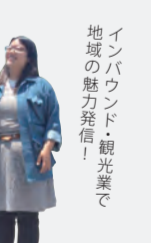
学生挑戦型
小牧満也(2016~)
「市民参加型里山整備」



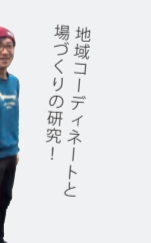
起業支援型
岸田万穂(2016~)
「里山整備」



起業支援型
池上知佳(2017~)
「食文化」



起業支援型
梅谷美知子(2017~)
「食文化」



半学半地域型
岩崎智彦(2018~)
「地域おこし協力隊」

3 活動・情報支援

学生活動団体

毎年、篠山市内の異なる地区で実施されている実践農学入門に参加した学生らが自主的に学生団体を結成しています。活動目標や取組内容は様々で、それぞれが特色やこだわりを持って地域と連携した活動を行っています。楽しみながらも、継続的に地域のさまざまな課題解決にチャレンジしています。



ささやまファン倶楽部
真南条営農組合
2010年結成。地域の魅力発見をテーマに、農業ボランティアや里山整備、地域イベントへの参加を行っています。



おくものがたり
大学地区
2017年結成。廃校になった旧大宇小学校を拠点に、子どもたちとの合宿やお祭りへの参加を通して、大学地区の地域活性化を目標に活動しています。



学生活動団体連絡協議会(ささ連)
篠山市
各学生活動団体が集まり、篠山市全域の活性化を目指して、活動内容の共有や、地域の枠を超えた連携を図っています。



にしき恋
西紀南地区
2013年結成。地域密着を理念に、毎週末農業ボランティアや黒大豆の栽培、地域交流等を行っています。



AGLOC
岡野地区
2016年結成。地域と世界を繋ぐをテーマに、留学生らとともに月1回の農業ボランティアや地域活動を行っています。

セミナー・イベント開催
118件

篠山市と神戸大学との連携の成果発表と今後の展開を考える場として、年に1度、「篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」を例年通り、開催しました。このほか、神戸大学文学部の古文書合宿や留学生センターの日本文化見学旅行といった大学内のイベントの受け入れや、神戸大学・篠山市農村イノベーションラボによるラボオープントークやRLN、スクール関係のセミナーを開催しました。

視察件数
14件

ラボ・フィールドステーションで行う事業全体に対して、長岡造形大学や奈良女子大学、東京大学加太分室といった大学関係からの視察の他、行政団体等の視察を受けました。大学との連携事業に関する問い合わせの他、篠山イノベーターズスクール事業の展開状況等に関する問い合わせも多く、地域での起業化育成や拠点整備などへの関心の高さが伺えました。

相談件数
194件

ラボの活動の拡幅に伴い、地域からの問合せに至る前に、地域に出向いて確認する機会が増えた一方、地域の方からの相談問合せは微減しました。学内での施設利用相談や連携事業紹介に対する相談は従来通りであった一方、学生サークルの活動に対する問い合わせが増加しており、活動範囲を再検討することとなりました。

施設利用件数
274件

神戸大学内の連携による施設利用が例年通りあったことに加え、学内での連携強化による施設利用が増加しました。地域の方々やスクール生が企画されるイベント等の企画運営の一環等での利用がありました。スクールのこれまでの半年に一度の開講から、一年に一度の開講に変更した影響もあり、施設利用件数は減少しました。